

学校の煙突 石綿対策の提案強化 エコ・24 処理剤噴霧し封じ込め

無機系素材を使った独自の工法によるアスベスト処理事業を展開するエコ・24(東京都港区、波間俊一社長)は、学校施設のボイラーの煙突内部に含まれるアスベスト対策の提案活動を強化する。アスベストを含む断熱材に処理剤を噴霧してアスベストを封じ込める

工法が、煙突を解体してアスベストを除去するよりコスト、工期を大幅に低減できるため、自治体や学校施設管理者などに採用を働き掛ける。

同社が提案しているのは、含浸固化剤「エコベスト」(ストレートシリコーン)を主成分とするポリシロキサン結合溶液を噴霧し、アスベストを封じ込める「CAS工法」。低圧噴射の吹き付けによってアスベスト層全体へ染み込ませ、アスベストを非針状化して人体に無害な形状にする。

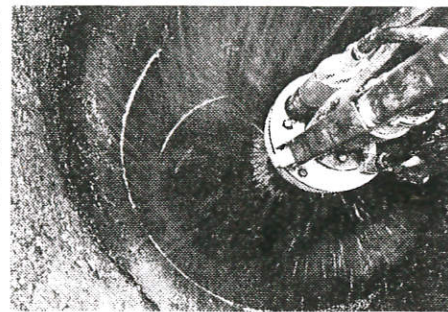
2012年に日本建設機械施工協会から建設技術審査証明を取得。封じ込め処理について10年間のメーカー保証をしている。

処理剤を吹き付けるだけの簡単な作業で煙突アスベスト対策を行える点に着目した東北地方の市がこのほど、全国に先駆けて小中学校など15施設で煙突のアスベスト含有断熱材を封じ込める工事を実施。この工事を請け負った同社は「煙突内部のアスベストは、断熱材の経年劣化や破損によって飛び散る可能性があるの

で、この市のように煙突アスベスト対策を早急に実施するよう、各方面に訴えていきたい」(波間社長)としている。

厚生労働省は12年9月、煙突内部のアスベスト含有建材が著しく劣化している場合、煙突内部だけでなく隣接する屋内の機械室などでもアスベスト繊維の飛散が確認されていることから、煙突内部のアスベスト含有断熱材の劣化状況などを確認するよう通知を出している。

こつした動きに合わせ、文部科学省は学校施設などを保有する各機関を対象にアスベスト含有断熱材の使用状況を調査。15年の調査結果では、380機関が「アスベストを含有する煙突用断熱材に劣化・損傷がある」と回答した。文科省は本年度も同様の調査を実施しているが、「昨年度は



煙突内への処理剤吹き付け

調査を依頼した13万3516機関すべてから回答を得られなかったため、何とも言えないが、今回の調査で

は劣化・損傷があると回答する機関が増える可能性がある」と(文教施設企画部)としている。